



作者の言葉
我が百合丘ロータリークラブのメンバーは、心から笑顔で活動している。この笑顔が、地域社会に大きな力を与えている。私もこの笑顔に学び、自分自身を成長させていきたい。そして、この笑顔が、多くの人々を笑顔にできることを目指す。川崎百合丘ロータリークラブのメンバー、みなさん、これからも笑顔で活動してください。大西 美穂

Weekly Report

2018~2019年度

第1949回例会 | 平成31年3月19日(火)

■ 会長：井上 久 ■ 幹事：嶋 元 ■ 会報：小林 亮二

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30

例会会場 ホテルモリノ7F TEL 044-966-1300

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ

<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第1949回例会記録 平成31年3月19日(火) 35/48回

<点鐘>

井上久会長

<ソング> 我等の生業

<お客様紹介>

笠会員のご紹介で当クラブに入会予定の青柳和洋様→「都内で経営コンサルタント業をしております。コンサルタント業務だけでなくホームセキュリティ、オンライン教育の会社等も立ち上げております。これから新百合ヶ丘に貢献できればと思っています」。

<会長報告>

井上久会長

先に、理事会報告です。

・三井住友信託銀行新百合ヶ丘支店支店長の勝田会員が異動となり、新支店長が当会に入会することが承認されました。

以下、会長報告です。

1. 2019年ロータリー国際大会におけるクラブの信任状と投票代議員カードの件
2. 社会福祉協議会第2回評議委員会の開催の件
3/26(火)13:30~15:30 福祉パルあさお 大研修室
中村パスト会長に依頼しました。
3. プログラムの変更が多くなっております。ご確認下さい。

<幹事報告>

嶋幹事

*第2回 3クラブ合同研修セミナーの案内

4/11(木) 17:00~18:00研修 18:05~20:00懇親会
場所：琴平神社会館
テーマ：「ロータリーの役割とロータリーの出会い」
講師：高良明パストガバナー
全会員向けの研修セミナーとなっておりますので

できるだけ多くの参加をよろしく申し上げます。

*近隣クラブ例会案内

川崎西北RC、新川崎RC

<ニコニコ委員会>

白井委員

井上久会長→「幼稚園の卒業式が無事終了致しました」。嶋幹事→「山口会員、卓話よろしく申し上げます」。大矢会員→「3月27日より三越本店で春の院展がはじまります」。以下、感謝をこめてニコニコへ。赤本会員、阿久澤会員、安藤美恵子会員、安藤亨会員、福家会員、平岡会員、井上勇会員、金子会員、小林会員、小島会員、小塚会員、中島健児会員、中島眞一会員、中村会員、野島会員、親松会員、尾崎会員、鈴木清会員、玉井会員、山口卓会員、渡邊会員、結城会員、白井会員。

<出席委員会>

大西委員

	会員	出席	欠席	メーカー	出席率
第1949回	43	29	14		67.44%
第1948回	43	32	11	3	81.40%

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	26件	26,000円	875件	976,951円
財団	0件	0円	16件	197,500円
ベネファクター	0件	0円	1件	112,000円
米山	0件	0円	30件	400,000円

第1951回 4月2日 お花見例会 夜会

第1952回 4月9日 招聘卓話

第1953回 4月16日 会長エレクト研修セミナー報告 会長エレクト

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

本日のプログラム

<会員卓話>

山口卓会員

私が勤務しておりますみずほ銀行は、1945年に、最初の宝くじが発売された時以来、宝くじ業務の受託をさせて頂いております。本日は、「よく当たる宝くじとは？」とか「当たるくじとはずれるくじの見分け方」とかいった話をご期待下さる方もいらっしゃるかと思いますが、まずは、資料に沿って宝くじの歴史といったところからお話させていただきます。



以下、スライドを見ながらお話を聞きました。

・宝くじの歴史

「宝くじ」という呼び方についてですが、これは我が国独特のもので、宝くじの創成期である終戦直後に、当時の日本勧業銀行の行員が発案した呼称です。諸外国では“LOTTERY”すなわち「富くじ」と呼ばれています。日本の富くじの起源は、約390年前の江戸時代初期、現在の大阪府である箕面山瀧安寺で、正月の元旦から7日までに参詣した人々が、自分の名前を書いた木札を唐びつの中に入れ、7日の日にお寺の僧侶がキリで3回突き、3人の“当選者”を選び出し、福運の“お守り”を授けたのが起こりとされています。その後は次第に金銭に結び付き「富くじ」として街に氾濫するようになり、やがては徳川幕府が禁令を出すに至りました。1945年7月、政府は戦費調達をはかるため、1枚10円で、1等賞金10万円が当たる富くじ「勝札」の販売を当時の日本勧業銀行に命令しました。この「勝札」は抽選日を待たず終戦を迎えたため、皮肉にも「負札」となりましたが、現在のみずほ銀行と「宝くじ」の長い縁はここから始まったのです。

・宝くじ一枚の中身(2017年度)

宝くじの売り上げはどのように使われているかご存知でしょうか。2017年度の場合、売り上げの46.9%は当せん金として当せん者に支払われました。

そして、宣伝費や印刷費等の経費を除いた、38.1%が収益金として販売元に納められました。

発売元に納められた収益金は、地方自治体によって、教育施設、道路、橋、公営住宅、社会福祉施設などの整備事業や文化芸術の振興、高齢化少子化施策、スポーツ事業の運営費など、幅広く公共事業等に使われていますので、たとえハズレたとしても、身近な街づくりに役立っているのです。宝くじの購入は、実は「身近な社会貢献」なのです。

・宝くじの時効当せん金

宝くじの当せん金には、時効があることにご注意下さい。せっかく当せんした宝くじも、支払開始日から1年を経過すると時効となり、当せん金を受け取ることができなくなります。2017年度に時効を迎えた当せん金は149億円もありました。なお、皆様の中には、時効となった当せん金はみずほ銀行の収益になっていると考えている方がいらっしゃるかもしれませんが、そこは誤解でございます。時効となった当せん金は、発売元に収益金として納められ、公共事業等に使われています。

・高額当せん者の人物像

さて、ここからは少し柔らかなめ話題となりますが、実際に高額当せんされている方というのはどんな方なのでしょう？

「宝くじ長者白書」という2017年度の1年間に宝くじで1,000万円の当せん金を受け取られた方のうち、1,065名のアンケートをもとに作られたデータから、高額当せん者の人物像を探ってみたいと思います。人物イメージとしては

男性は「購入歴10年以上で60才以上、30枚購入した双子座の会社員の“T.K”さん」。

女性は「購入歴10年以上で60才以上、10枚購入した山羊座の会社員の“M.K”さん」。だそうです。

年齢別では男女とも60才以上の方が1位です。購入歴は「10年以上」の方がトップでした。「継続・忍耐」が幸運を呼ぶようです。

おかげ様で宝くじは「国民の健全な娯楽」、「夢」としてすっかり定着しました。「ちょっとした身近な社会貢献」、宝くじを今後ともよろしく願います。

<点鐘>

井上久会長